

第15回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会  
情報提供・相談支援部会 議事要旨

日時：2020年11月27日（金）13:00-15:00

開催形式：Web会議システム（Webex）を用いたオンライン開催

1. 開会のあいさつ（都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 議長／国立がん研究センター 理事長 中釜 斉）

本日の情報提供・相談支援部会では、昨今のコロナの状況下において情報提供・相談支援を十分に機能させていくための取り組み、工夫についての情報共有をできればと考えている。

本日の出席者について

（情報提供・相談支援部会事務局／国立がん研究センターがん対策情報センター 八巻）  
都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会参加施設の情報提供・相談支援の責任者またはそれに準ずる方、実務者他の方々、計113名の方にご参加いただいている。

オブザーバー紹介（がん対策情報センター 八巻）

一般社団法人グループネクサスジャパン 理事長／一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長 天野 慎介様

小児脳腫瘍の会 代表／一般社団法人日本希少がん患者会ネットワーク 事務局長 馬上 祐子様

国立成育医療研究センター 小児がんセンター 血液腫瘍科診療部長 富澤 大輔様

国立成育医療研究センター 医療連携・患者支援センター 鈴木 彩様

2. 本日の概要

（情報提供・相談支援部会長／国立がん研究センターがん対策情報センター 高山）

**資料3** スライド3～6

この半年、一年の間、各施設コロナの影響により対策・対応に追われていたと思われる。これまで相談支援では対面を大事にしてきたが、対面での活動が非常に制限される状況となっている。今回の部会ではこの難しい状況の中でも、このように工夫、対応しているという取り組みを紹介していくプログラムとなっている。また、当センターで行っている相談員研修の来年度の方針について説明させていただき、皆様からのご意見をいただきたいと考えている。

3. コロナ禍における都道府県拠点病院の活動やがん相談支援センターの運営に関して

1) 全国のがん相談支援センターから寄せられている困難や傾向、その対処法について  
(情報提供・相談支援部会事務局/国立がん研究センターがん対策情報センター 宮本)

**資料 3** スライド 7～15

コロナ禍におけるがん相談支援センターの現状として、特に関心が高いと思われる以下3点についてのアンケート結果が報告された。

- (1) 患者サロンなど、患者、家族、市民向けイベントに関して
- (2) 都道府県部会の活動(部会の開催や研修)に関して
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大を受けて増加した相談内容や対応に困難を感じる相談内容に関して

2) 取り組み紹介

(1) 患者サロンの運営に関して  
オンラインを利用した患者サロンについて

(静岡県立静岡がんセンター 疾病管理センター よろず相談 高田 由香)

**資料 3** スライド 16～20

患者さんの要望を受け、従来集合型で開催していた患者サロンを zoom 開催としたこと、準備段階では病院の承認を得たり、個人情報の観点から zoom 有料アカウントを取得したことなどが紹介された。

自宅・遠方から参加可能等メリットがある一方で、共感を伝え合うことが難しい、画面表示の操作が分からない等のデメリットも見られたこと、改善策の試みなどについても紹介があった。

集合型患者サロンについて

(福井県立病院 地域医療連携推進室 山口 由美子)

**資料 3** スライド 21～25

病院として、外部参加者がいる場合の院内行事等の注意事項等対応方針が示されたことを受け、集合型患者サロンの再開を検討するに至ったこと、参加者に求める感染症対策や病院側として準備する環境(定員制、予約制、ソーシャルディスタンスのとれる会場、実施時間の短縮、開催前後の消毒等)について、詳細な取り決めや周知を行った上で開催していることなどが紹介された。

## (2) オンラインを利用した研修の継続について

(兵庫県立がんセンター 看護部 がん相談支援センター 伊藤 由美子)

### 資料3 スライド 27～32

Web 会議システムやネット環境等さまざまな環境が整わず、また分からないことも多くある中、兵庫県での部会のオンライン開催に向けて、どのような準備・調整をおこなってきたかが報告された。すべての拠点病院に Web 会議について確認、あらゆる場面を想定した ZOOM リハーサル、マニュアルの作成、直談判して ZOOM 有料版を購入する等、自身の中で覚悟を決めて取り組んできたこと、部会メンバーとも協力しながら取り組んできたことについての紹介があった。

## (3) 増加した相談内容やその対応について

(岡山大学病院 総合患者支援センター 石橋 京子)

### 資料3 スライド 33～37

コロナ禍に因る相談(経済的な問題や在宅サービスの利用)が特段増加しているわけではなく、全体的に相談件数が増加していること、退院支援においては、病院の面会制限があるため、転院よりも在宅を目指す患者が若干増加傾向にあることなどが説明された。オンライン面談やカンファレンスの実施に向けて、通常時より意識的に患者・家族から事前情報収集を行ったこと、当日は特段問題なく面談やカンファレンスが実施できたこと、オンラインならではのコミュニケーション課題に対応していくことなどの課題があることが説明された。

## 3) 質疑応答およびディスカッション

(がん対策情報センター 若尾)

オンライン面談について。コミュニケーションがとりにくくスキルアップが必要とのことだが、どのようなスキルが必要か。

(岡山大学病院 石橋)

集合していると患者さんの間合い、緊張感が感じられるが、オンラインでは難しい。どう汲み取るかが課題である。事前に情報収集した内容をその場で確認する、言語のコミュニケーションスキルを上げていくということが必要と思われる。

(都立駒込病院 出江)

個人情報の問題、セキュリティについての課題は病院として検討されているか。何か患者から承諾をとったりされているか。

(岡山大学病院 石橋)

今回のオンライン面談に参加したのは家族のみだった。アプリ使用に関してはきちんと ID が取れるものを使うなど配慮した。

(長崎大学病院 川崎)

退院前カンファをオンラインで 4 月からやっている。在宅関係者に患者情報を伝えるので、患者にあらかじめ同意書をとってやっている。一番の課題は、顔がよく見えないことである。アジサイネットのテレビ会議システムを使っている。

(岡山大学病院 石橋)

オンラインでのサロンの場合、個人情報のごことはどうされているのか教えてほしい。

(静岡県立静岡がんセンター 高田)

参加者に対しては、限られたメンバーしか参加できないということは伝えている。現状としては文面の同意書はとっていない。

(群馬大学医学部附属病院 村上)

AYA カフェを 10/23 にオンラインで実施した。個人情報を話すということもあり、周囲に人がいない環境をどう整えてもらうかが一番の懸念事項だった。

(群馬大学医学部附属病院 角田)

セキュリティ上の問題がずっと課題だった。周囲に人がいない個室環境を整えることなど取り決め事項を事前に作り共有したうえで開催した。同意書はとっていない。

#### 4. 2021 年度の相談員研修の開催・実施方法について (がん対策情報センター 八巻)

##### 資料 3 スライド 40～49

2021 年度の相談員基礎研修 (3) 開催形式について、ハイブリッド型 (グループワークは小規模、各都道府県単位とし、会の進行や全体共有はオンラインで NCC と各グループをつなぐ) を予定していることが報告された。

#### -質疑応答-

(国立がん研究センター 理事長 中釜)

ハイブリッド型で実施する場合に試行的にやってみるという考えはあるか。

(がん対策情報センター 高山)

今年度の相談員指導者研修で同様の形を試みており、大きな問題なく開催できたため、基礎研修（3）でも開催可能ではないかと考えている。

## 5. 患者体験調査からの報告

（国立がん研究センターがん対策情報センター がん臨床情報部 市瀬 雄一）

**資料 3** スライド 50～69

**参考資料 2** 平成 30 年度患者体験調査に基づく提言書

2019 年に実施された患者体験調査の解析結果概要が報告された。

患者と医療者間のコミュニケーションは十分とは言えない状況であり、医療者に対して患者が知るべき情報の周知あるいは教育の機会を提供することが必要であること、また、患者やその家族が診断直後から知っておくべき情報へアクセスできるような仕組みの整備が必要であることなどが課題として指摘された。

## 6. 情報コンテンツ作成・提供・活用、査読に関する協力依頼（がん対策情報センター 高山）

**資料 3** スライド 70～81

国立がん研究センターがん情報編集委員会からの情報コンテンツ作成・提供・活用、査読に関する協力依頼について説明があり、部会として協力依頼を受けること、部会で長年課題としていたテーマとも重なるため、積極的に関与・協力していくことで合意した。

## 7. 国立がん研究センター認定事業、他について（がん対策情報センター 八巻）

**資料 3** スライド 82～105

2021 年度の研修スケジュール、「相談対応の質保証を学ぶ」研修自主開催、国立がん研究センター認定事業などについての案内、III 群研修開催報告や次年度開催予定研修についての事前情報収集協力依頼などが説明された。

## 8. その他

オブザーバーよりコメント

一般社団法人グループネクサスジャパン 理事長／一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長 天野 慎介様

腎炎で入院していた。都内病院で面会制限あり、高齢の方が家族と面会できない中で弱っていくのを見て、相談できる場の重要性を改めて感じている。今日の話伺い、2 点

申し上げたい。オンラインサロンについて、意欲的に取り組んでいただき勇気づけられたが、まだまだ多くの相談支援センターでサロンが開催されていない状況。各相談支援センターで苦勞があるのはよくわかるが、できない理由を並べ立ててもしょうがない。オンラインをぜひ進めていただきたい。全国がん患者団体連合会ではオンラインのピアサポート留意事項の手引きを作成してネット上で公開しているので参照いただきたい。2点目として、相談支援センターの周知の問題がある。患者体験調査でも、たどり着けない人が相変わらずたくさんいるとの結果が出ていた。10年前から同じことが言われている。患者が初診時から自動的に相談支援センターに立ち寄る仕組みをぜひ検討いただきたい。主治医に会ってショックな説明を受ける前に、まず相談支援センターの存在を知っていただくような形にしてもらいたい。

#### **小児脳腫瘍の会 代表 馬上 祐子様**

コロナ禍で大変な中、尽力いただき感謝申し上げます。がんの子どもは親に会えず本当にさみしい思いをしている。子どもとテレビ電話をできるようにするなど、病院側で様々な取り組みをしていただいている。患者会でも zoom を取り入れているが、セキュリティの問題などがある。相談支援部会で統一した取り決めをしていただけると、患者会としても参考にできるのでありがたい。情報提供ツールについては、パンフレットで診断後患者に全員配布して、そこから相談につながるようにしていただけるとよいと思う。

#### **連絡事項（がん対策情報センター 八巻）**

次回、第16回情報提供・相談支援部会は2021年5月27日(木)を予定している。

#### **9. 閉会のあいさつ（都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会事務局長／国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾 文彦）**

コロナ禍での相談支援、サロン等いろんな情報共有をしていただいた。まだできていないところもある。本日指摘のあったオンラインでのセキュリティなどについて情報を集め、皆様に情報共有したい。基礎研修(3)については、ハイブリッド型をぜひ検討いただきたい。患者に対して情報が十分伝わってないことが患者体験調査で明らかになった。その解決が3番目に説明した診断して間もない方への情報提供資材である。配布の仕方なども含め検討する必要がある。患者に利益があるとともに、主治医の負担を軽くすることにもつながるので、ぜひご協力いただきたい。